

韓日発掘交流に参加して

国立慶州文化財研究所と奈良文化財研究所の発掘調査交流の一環で、2016年8月22日から10月14日まで発掘調査や資料調査等をおこないました。

前半は藤原宮朝堂院の発掘調査に参加しました。文献に記録のある儀式に関わるとみられる計7基の旗竿遺構を大極殿院南門前面で検出した調査でした。現場班の一員として発掘期間中、韓国における旗竿遺構の事例について調べました。

後半は東大寺東塔院跡の発掘調査に参加しました。鎌倉時代の基壇の中に奈良時代の基壇が良好に遺存していることがわかりました。現場担当者の方々と基壇について討論をしたことも良い思い出です。

そのほかにも平城宮第一次大極殿院復原検討会や、発掘調査の記者発表、現地説明会に参加し、その過程を間近にみたり、日本各地の遺跡を踏査し、様々な整備・復元事例に触れることもできました。

韓国では私のような建築専攻者が発掘に参加する機会がほとんどありません。今回、日本で実際に発掘作業に携われたことは、韓国で整備・復元をおこなっていく上でも非常に貴重な経験となりました。

8週間という短い滞在でしたが、誠実で親切で情熱あふれる研究者にたくさんお会いすることができました。また今回の経験を通じて、韓日両国は多くの研究を一緒に進めていけることを確信いたしました。今後も両研究所の交流が末永く続くことを祈念しております。

(国立慶州文化財研究所 崔 享仙、翻訳 謙早 直人)



発掘作業への参加風景

東院庭園観月会

秋の始まりを告げる恒例行事となってきた東院庭園観月会ですが、今年も9月17日に開催しました。例年通り、参加者には奈良パークホテルの協力により提供された古代食と古代酒を手に、東院中央建物前の会場へと進んでいただきました。

本年は、宝亀4年(773)2月27日に、東院庭園が完成し光仁天皇が出御するとともに、完成に功のあった高麗石麻呂に従五位下が与えられたという『続日本紀』の記述を参考に組み立てました。まず初めの雅楽演奏では、今回初めて横笛の太田豊氏に隅櫓の高欄で演奏していただき、その後、本年の正倉院展の注目出陳品の一つである竿を奏でていただきました(写真1)。

後半の天平衣装の披露では、光仁天皇とその家族、能登内親王、高野新笠、藤原曹司が登場し、光仁天皇から高麗福信、石麻呂親子に位記が授与される様子を再現しました(写真2)。

今後も史跡の調査研究だけでなく、その活用にも積極的に挑戦していくとともに、当時の平城宮をご理解いただけるような公開の機会を増やしていきたいと考えております。 (副所長 杉山 洋)



写真1 雅楽の演奏(右から二人目が竿)



写真2 位記の授与(紫朝服:高麗福信、赤朝服:高麗石麻呂)